

技術士包装物流会 月例研究会 講演要旨

日時	平成 31 年 05 月 20 日 (月) ----- 18:00~20:00
場所	日本マテリアルフロー研究センター 2F 会議室 〒171-0022 東京都豊島区南池袋 パレス南池袋 2 階
演題	2030 年未来包装 (生活、食品ロス)
講師	日本包装専士会未来包装研究委員 アサヒクオリティードイノベーション株式会社 技術情報室 部長 技術士 島田道雄氏、味の素株式会社 小林義浩氏

内容	
----	--

日本包装専士会にて未来包装研究委員会が3年前に立ち上げられ、2030年、包装の未来を予測、昨年の東京パック展にて、生活者、食品ロス、循環型社会、包装技術の4分野に分けそれぞれの視点からみた予測内容を講演した。5月研究会では、その4分野の前半の分野2つ ①生活者、②食品ロスについて、前編として講演した。

前編の前段で2030年包装の未来の社会的背景としてグローバルな視点からSDGsとの関連を、ICTの視点からIoP (Internet of Packaging) を、更に未来の技術を説明した。

① **生活者**では、人口動態変化等を起因とした日本型社会の崩壊にどう向き合うか、LIFE SHIFT (ライフスタイルの変化)、WORK SHIFT (働き方改革)、SPEND SHIFT (消費スタイルの変化) の3つの角度から生活者が変化すること、そして技術面から包装がその変化にどう関係していくかを考察。更に、未来の街が変化し、空間と人間関係の2軸で開けるか、閉めるかで4通りの未来の街の風景の中で、包装がどう関わっていくかを挙げた。

② **食品ロス**では、日本の食糧自給率の低さから食糧確保の観点で食品ロスを削減していくことが重要であること、そして、その原因をサプライチェーンの中で、上流から下流まで各段階で発生している食品ロスの要因を整理して挙げた。その要因に対し、IoP を駆使し、又、新しい鮮度保持技術、AI やロボットを活用して各段階で発生している食品ロスを削減できることを提言した。

後編の2分野、③循環型社会、④包装技術については、7月の研究会で講演の予定である。

以上
文責 島田道雄